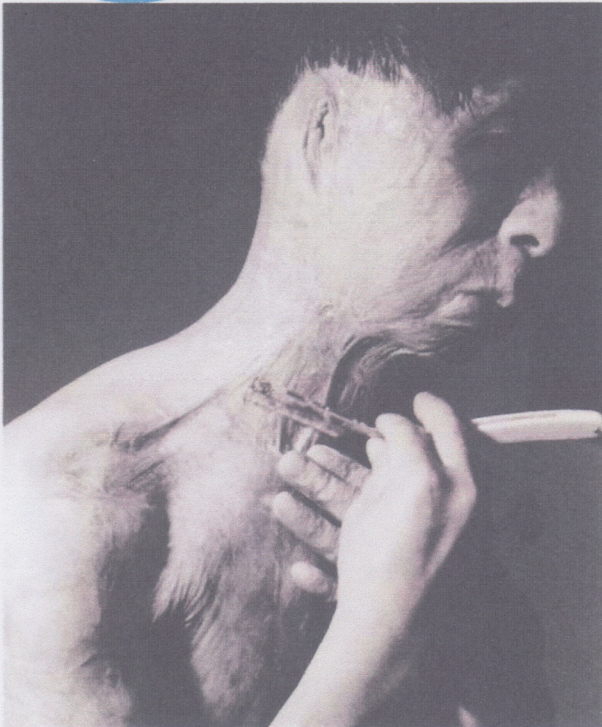


核兵器の
非人道性を
伝えよう

核兵器のない平和で公正な世界へ

広島・長崎被爆展示組写真

被爆者の願いを国内外に届けましょう



苦悩とたたかい

山口仙二さんは14歳のとき、学徒動員先の三菱兵器の工場で屋外作業中に被爆。右上半身に熱線を浴び、その後さまざまな悪性の病気に襲われつづけた。原水爆禁止運動の高まりが、「生きる勇気をくれた」と言う。

(1970年撮影 村屋孝・日本リアリズム写真家協会長崎支部)

Agony and Struggles

Mr. Yamaguchi Goro was 14 years old when the atomic bomb attacked Nagasaki. At the time of the exposition, he was engaged as a part of student mobilization efforts in construction work outside the building of the Mitsubishi Arms Factory Plant. He suffered intense heat rays on his right-upper body, and has repeatedly contracted many malignant diseases. He says that the rise of the movement against A and H-bombs has given him "courage to live on."

(1970. Photo by Munetsugu Sakue, Nagasaki Branch of the Japan Realist Photographers Association)



殺してくれ!

Kill Me!

広島、長崎の原爆被爆70年を経て、2016年は日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が結成から60年を迎えます。被爆者の皆さんは今年、「ノーモア・ヒロシマ・ナガサキ」「ふたたびヒバクシャをつくるな」の願いを実現するために、新しい署名運動を始めます。被爆者を支え、核兵器がもたらす非人道的な被害の実相を国内外の人々に知らせましょう。すべての自治体や学校、公的施設で原爆写真展を開きましょう。

★広島・長崎被爆展示組写真

A3版封筒入り・18枚組（英文説明付）

1部 2,000円（送料別）

内容：被爆写真12枚、核実験被害写真3枚、世界の核兵器の現状1枚、「核兵器全面禁止のアピール」署名の力1枚、世界にひろがる原爆展1枚 計18枚

切り取り

●被爆展示組写真 **申し込み用紙**

■申し込み部数 部

■住所 〒 -

■お名前・団体名

Tel. ()

◎お問い合わせは **原水爆禁止日本協議会**

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4

Tel.03 (5842) 6031 Fax.03 (5842) 6033